

復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

【第1回】

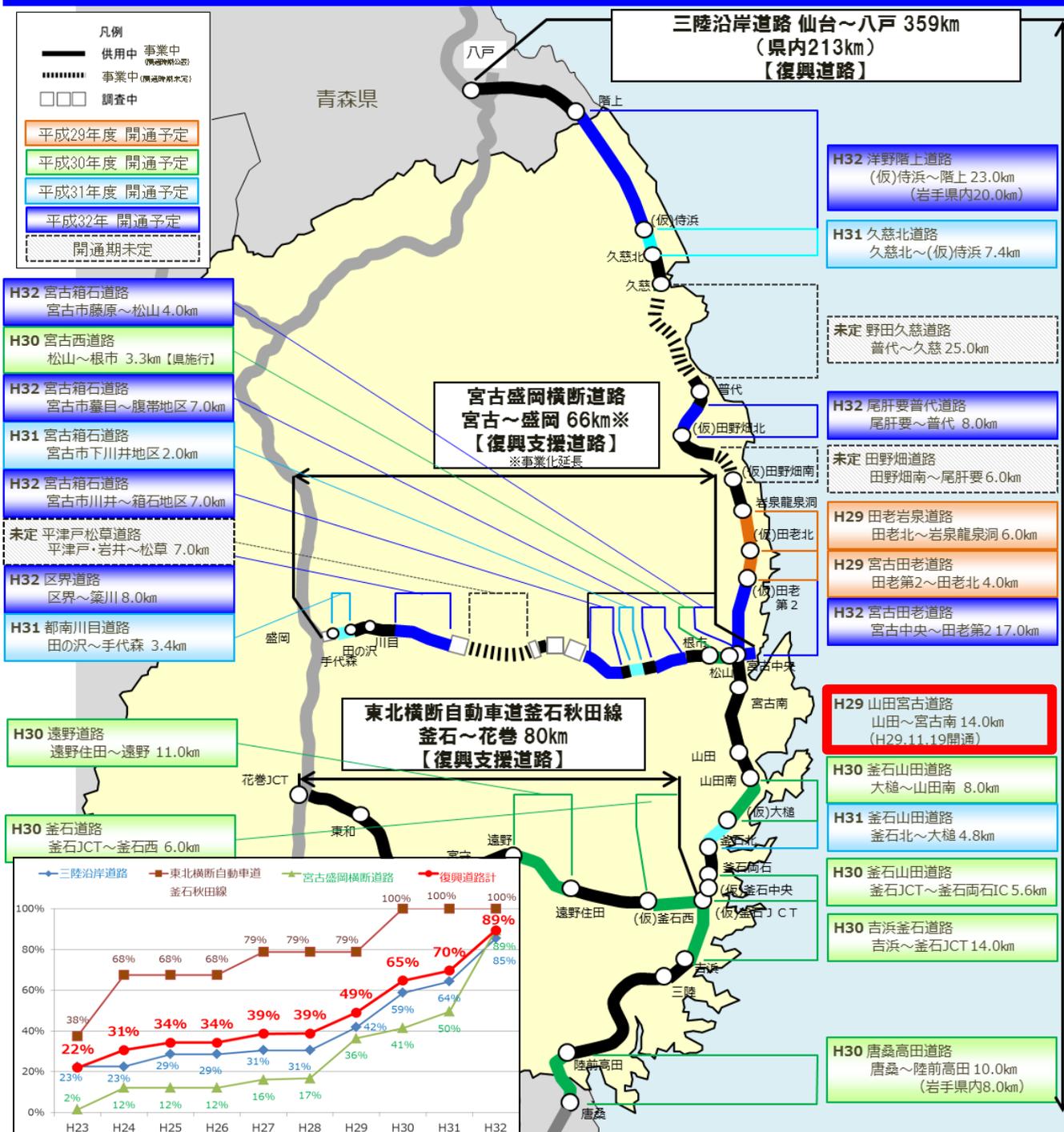
道路建設課

かつてないスピードで整備が進む復興道路等は今年度から開通ラッシュを迎え、平成32年度までに約9割の開通が予定されており、**いよいよ全線開通が現実となってきました。**

復興道路が整備されることで、時間短縮や安全性の向上といった効果が見込まれます。それに伴い、地域間交流の活性化、企業の生産活動や雇用の拡大、家計の所得や消費の増加など**様々な効果が期待**されます。

このような、**社会資本が機能することで得られる様々な効果(ストック効果)**を今号から毎月紹介していきます。

岩手県内の復興道路等の概要



復興道路等の整備による「直接的効果」

復興道路等が整備されると、「直接的効果」として次のような効果が表れます。

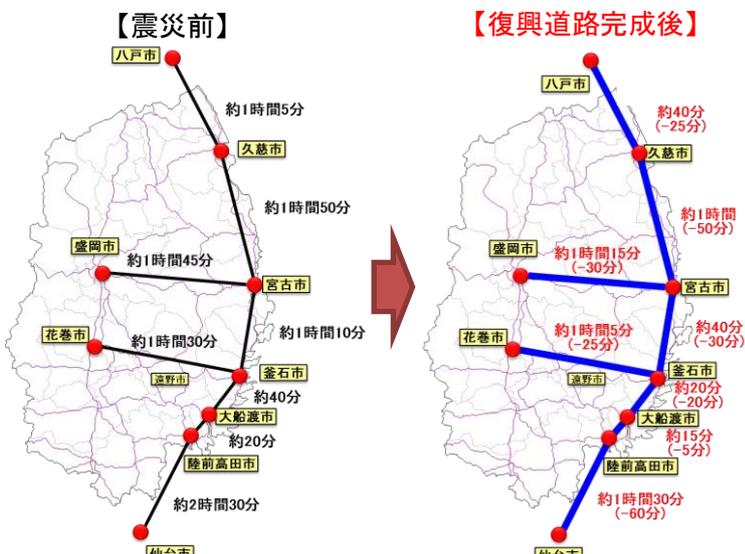
復興道路が
開通すると...



時間短縮	沿岸各都市間、内陸と沿岸の所要時間が短縮されます
災害に強い道路の確保	災害時でも安全で安心な通行が可能となります
走行性、安全性の向上	走行快適性の向上や交通事故の減少に寄与します
その他の効果	渋滞解消（交通の分散）、走行経費の削減 など

都市間所要時間の短縮

復興道路等の完成により、主要都市間の所要時間が大幅に短縮



区間	震災前	完成後	短縮時間
仙台市～八戸市	7時間35分	4時間25分	-3時間25分
盛岡市～宮古市	1時間45分	1時間15分	-30分
花巻市～釜石市	1時間30分	1時間5分	-25分

・各都市間の起終点は、各都市最寄りのIC
 ・震災前はH22道路交通センサスより算出（データの無い区間は規制速度等）
 ・復興道路整備区間は、道路構造に応じた速度（70～80km/h）により算出

災害に強い道路構造

山沿いへのルート選定や沿岸部を高さのある橋梁にすることで、津波浸水区域を回避することができます。
 三陸沿岸道路はこれらにより津波浸水区域を通過しない、災害に強い道路として整備が進められています。



津波浸水区域を回避したルートを選定



高さのある橋梁により津波浸水域を通過

走行性、安全性の向上

- 復興道路等の整備により、急勾配や急カーブが解消され、救急搬送における患者や車両を運転するドライバーの負担やトラック輸送による荷傷みが軽減されます。
- 峠道の解消やトンネル化により冬期間における安全な通行が図られます。



その他の効果

- 今まで市街地の一般道を走っていた通過交通が、復興道路等を利用することにより、交通が分散し、渋滞の解消に繋がります。
- 復興道路等を走行することにより、燃費が向上し、走行経費の削減が図られます。

次ページでは、地域への波及効果の事例を紹介します。
 第1回目は「三陸沿岸地域の観光振興」です。

ストック効果事例 三陸沿岸地域の『観光振興』

岩手県の観光

- 沿岸には、三陸復興国立公園や三陸ジオパークなど様々な観光資源が存在します。
- 岩手県の外国人観光客の入込数は増加傾向にあり、ラグビーワールドカップ 2019™の開催など、今後ますます増加することが見込まれます。

三陸復興国立公園、三陸ジオパーク



浄土ヶ浜 (宮古市)



碁石海岸 (大船渡市)



龍泉洞 (岩泉町)



北山崎 (田野畑村)

外国人観光客の岩手県への入込数



復興道路等の整備により見込まれる観光面でのストック効果



内陸部～沿岸部のアクセスが向上し、**周遊型観光の活性化**に繋がります。

宮古港と室蘭港を結ぶ**フェリー定期航路**と連携した**広域的な交流連携・観光振興**が図られます。

いわて花巻空港と連携した**訪日観光客(インバウンド)の引き込み**に繋がります。